

Japan
Handball
Association



- 社会人
- 学生
- 高専
- 高体連
- 中体連
- 小学生
- 県協会

- 全国大会
- ブロック大会
- 都道府県大会
- 地区大会

- 男子
- 女子

試合番号 **オムロン-女15**

年月日 **2019年8月4日(日)**
大会名 **令和元年版全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会**

公式記録用紙

A 県立佐世保西高等学校					県立四日市商業高等学校										B	
都道府県 熊本県		市町村 山鹿市			会場 オムロン鹿陽センター										回戦 1回戦	
前半	A 5	B 14	最終結果	A 14	B 25	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7m20-21発射	A	B		
7m得点/総数	A 2/3		チームタイムアウト			チームタイムアウト			B 0/0		7m得点/総数					
	1	1623	2前半	3	2642	1	2後半	3	2055	2431						

No.	県立佐世保西高等学校	G	W	2'	2'	D	DR	No.	県立四日市商業高等学校	G	W	2'	2'	D	DR
1	浦吉 野愛							1	加藤 愛望						
2	平田 彩乃							2 C	古川 瞳	3					
3 C	松富 ほのか	3						3	吉田 美月						
4	田中 美羽	3						4	南川 濤帆	2					
5	山口 集凜	1						5	伊東 若葉	7					
6	平野 詩織		1					6	前川 来夢	3					
7	末川 晴香	2						7	伊藤 朱里	2					
8	川島 麗							8	濱田 唯花	2					
9	田川 未呼							9	服部 望愛	1					
10	笠松 千夏	4						10	森田 光	2	1				
11	中村 菜	1						11	今谷 琉果	2					
12	遠山 美穂							13	豊田 陽菜			1			
13	木原 望実							14	孫田 空	1					
14	田中 遥							15	原 成海			1			
役員A	山口 麻利子							役員A	蛭川 健司						
役員B	松下 達喜							役員B	田中 春陽						
役員C	浜崎 守麗							役員C	橋本 由紀子						
役員D								役員D							

A	山口 麻利子	チーム役員A署名	蛭川 健司	B
---	--------	----------	-------	---

レフェリー	森山 透	安藤 太貴	新井 達	安藤 悠
TD	本田 真吾	山川 潔	本田 真吾	山川 潔
MO				

得点(G)、警告(W)、退場(2)、失格(D)、報告書付否失格(DR) 特記事項に報告書として内容を記入

ハンドボール No. 42

令和元年度全国高等学校総合体育大会
高松宮記念杯第70回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

戦評

開催日	2019年 8月 4日 日曜
会場	オムロン鹿陽センター
種別	女子
回戦	1回戦・15

スコア	チーム名	総得点	前半	後半	総得点	チーム名
	14	県立佐世保西 (長崎県)	14	5-14	9-11	25
後半				第2延長		
	第1延長					7MC
	—					—
	—					—

※第1延長・第2延長及び7MCの得点は総得点に加算してください。

戦評	前半	先制は四日市商業古川が速攻から得点する。対する佐世保西は松富の7mTで得点をずる。10分を経過し、2-2と均衡した試合展開。松富が今日2本目の7mTを決めるも前川のポストシュートで同点。その後今谷のカットから速攻で四日市商業がリード。伊藤のサイドシュート、今谷のカットインで差を3点とする。佐世保西は笠松のロングシュートで1点を返す。GK蒲吉の好セーブで波に乗りたい佐世保西だが四日市商業の堅い守りを崩せずに逆に速攻で点差をつけられる。前半残り4分で四日市商業服部のロングシュートが決まり5点差となると佐世保西はたまたまタイムアウト。四日市商業は森田のロングシュート、攻守から濱田の速攻で突き放す。前半終了間際も伊藤の速攻で差を9点とする。
	後半	佐世保西田中のサイドシュートで後半取り返すも四日市商業も伊藤(朱)、伊藤(若)の両サイドシュートで突き放す。後半に入りどちらのチームも守りがよくなり進退の攻防が続くが要所で四日市商業南川のロングシュート、ポストパスが決まり、主導権を握る。佐世保西も松富のロングシュートで追い上げをかけるがなかなか点差が縮まらない。20分過ぎ佐世保西が7mTを取るも四日市商業GK加藤の好セーブで得点を許さない。24-11と後半引き離せない四日市商業はタイムアウトを取りメンバーを変える。その後連続して退場者を出し11点差とされるが最後まで堅い守りで試合をおこなった四日市商業が逃げ切った。

記入者 井手 偕幸